

学位論文審査結果の要旨

博士課程 甲・㉔	第 53 号	氏 名	三好 良英
審 査 委 員		主 査 氏 名	黒田 嘉紀
		副 査 氏 名	中里 雅光
		副 査 氏 名	吉村 三
[論文題名]			
1)Weight control in schizophrenic patients through Sakata's Charting of Daily Weight Pattern and its associations with temperament and character			
2)Burnout in Japanese residents and its associations with temperament and character			
[要 旨]			
三好良英さんの学位論文は上記2編で構成される。			
<p>最初の論文は、統合失調症患者をほぼマッチさせた介入群と、非介入群（各25名）に分け、介入群には毎日体重を自宅で測定、グラフ化体重日記を16週間継続して記録させ、さらに月1回の管理者による体重測定と体重管理についての面接を行い、一方非介入群には管理者による月1回の体重測定のみ行って、食行動質問表結果と体重の変化、気質性格特性（Temperament and Character Inventory (TCI) を使用して）について2群を比較検討したものである。結果として、16週間後のBMIの変化が介入群では$0.59 \pm 0.10 \text{ kg/m}^2$減少し、非介入群ではBMIが$0.66 \pm 0.18 \text{ kg/m}^2$増加した。食行動質問表でも介入群では合計得点の減少に有意傾向がみられた。また気質性格特性（TCIによる）による評価において、介入群では体重増加と尺度得点の間に相関を認めなかったが、非介入群では自己志向性と体重増加に弱い負の相関が見られた。結論として統合失調症患者の体重管理において、認知行動療法的体重管理方法が有効であると示した。</p> <p>次の論文は、研修医のバーンアウト発症に特定の気質性格特性が関与しているのかを上記と同様のTCIを使用して検討したものである。研修開始時にTCIを測定し、研修開始時、研修開始4ヶ月後、10ヶ月後にMaslach Burnout Inventory-General Survey (MBI-GS)を使用してバーンアウト状態を、さらに、Depression Scale(SDS)で抑うつ状態を評価し、TCIスコアとの関係を検討した。バーンアウトと判断された群では、協調性が有意に高く、抑うつと判断された群では損害回避、自己超越性が高く、自己志向性が低いことがわかった。このことからTCIがバーンアウトや抑うつ状態発症予測に有用であると示した。</p> <p>以上2つの論文は、TCIを使用することで、統合失調症患者の体重コントロールへの介入効果予測や、ストレス反応予測が行える可能性を示したものである。</p>			